

# 講演会『 両行という生き方 』

玄侑 宗久

【開催日】 2014年4月11日（金）

【会 場】 本宮市恵向公園内 浪江町仮設住宅集会場

【時 間】 13:30～15:00

この冬の近年にない大雪には改めて東北に住んでいることを実感させられましたが、先日までの寒い毎日がうそのように、時折あたたかな日が訪れます。少しずつではありますが春の足音が聞こえてくるような気がする、そんな陽気になって参りました。

どうぞ、皆さんお誘いのうえ

三春町福聚寺の住職、玄侑宗久さんのお話を聞いてみませんか。

ご一緒に、心安らかなひとときを過ごしていただければと思います。



講演のあと、参加された皆様と玄侑さんとの対話を予定しています。

主催：公益法人 日本建築家協会東北支部福島地域会  
福島地域会長 阿部 直人  
(有) 阿部直人建築研究所 電話 024-925-7616

## 玄侑宗久氏 プロフィール

福島県三春町の臨済宗妙心寺派福聚寺住職で、作家 57歳

小学校3年の頃、いずれ来る「死」を想って毎晩のように泣いた。中学3年の時、日本脳炎のため3日間の昏睡状態を経験。意識のない妄想の記憶と、あとで聞かされた行動などから、あらためて「死」について考えた。安積高等学校時代は毎年家出。高三のとき出逢った哲学者星清から後の出家への動機付けを得た。慶應義塾大学文学部中国文学科で現代演劇を専攻。在学中にイスラム教、ものみの塔に触れ、また山梨県向嶽寺などで坐禅を組み始める。この頃、小説を書き始め、同人誌「いんぐ」に参加。台湾、輔仁大学華語研究所に私費留学。帰国後、さまざまな職業を体験する。

27歳で京都の佐保田鶴治のヨガ道場を訪ね、指導を受ける。京都嵐山の天龍寺専門道場に入門し、平田精耕老師の許で参禅。神戸、山梨などを行脚してから帰郷。

1988年4月に福島県三春町福聚寺の副住職を務める。

2000年デビュー作「水の舳先」が芥川賞候補作となる。

2001年「中陰の花」で第125回芥川賞を受賞。

2007年柳澤桂子との往復書簡「般若心経 いのちの対話」で文藝春秋読者賞を受賞。

2011年4月東日本大震災復興構想会議委員。

2009年4月花園大学客員教授。

『アブラクサスの祭』が、映画化(出演・スネオヘアー、ともさかりえ、小林薫ほか)され2010年末に公開された。

2014年、『光の山』により芸術選奨文部科学大臣賞受賞